

Annual Report

2024

特定非営利活動法人
チャイルド・フアンド・
ジャパン
2024年度
年次報告書

ChildFund
Japan



理事長挨拶

今年度もチャイルド・ファンド・ジャパンの活動に、そしてアジアの子どもたちの支援に、温かいご協力をくださり、誠にありがとうございました。

今年度は、2024年夏にフィリピン マニラ首都圏での支援を本格的に開始するなど、チャイルド・ファンド・ジャパンにとって、新たな取り組みを推し進めた年でした。そして、年度後半は、1975年に国際協力活動を始めてから50周年という、節目の2025年を迎え、記念事業の準備を始めました。海外支援に踏み込んだ当時の理念を守り、スポンサーシップ・プログラムなどのこれまで培ってきた伝統を大切にしながらも、新たな社会課題へ対応する団体のあり方も考えていくときではないかと思っております。

支援者の皆さまにも、ぜひチャイルド・ファンド・ジャパンの新たな一歩をともに歩んでいただければと思っております。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長
たかはし じゅん
高橋 潤

役員	理事長	高橋 潤	日本基督教団銀座教会牧師
	理 事	福嶋 美佐子	チャイルド・ファンド・ジャパン支援者代表
	理 事	伊藤 悟	青山学院大学教授
	理 事	小澤 淳一	青山学院初等部部长
	理 事	藤井 明子	どんぐり発達クリニック院長
	理 事	古屋 治雄	日本基督教団阿佐ヶ谷教会牧師
	理 事	松浦 宏二	元チャイルド・ファンド・ジャパン事務局次長
	理 事	御牧 由子	静岡県立静岡がんセンターMSW主幹
	監 事	向山 功	株式会社向山商会代表取締役社長
	監 事	脇屋 元	立花証券株式会社取締役
2025年3月31日現在			

目次

理事長挨拶／役員	02	事業報告 日本／緊急・復興支援事業	16
チャイルド・ファンド・ジャパン 事業概要	03	広報・啓発・提言事業	18
チャイルド・ファンド・ジャパンの1年	04	様々なご支援・ご参加方法	20
地域開発支援事業	06	チャイルド・ファンド・アライアンス	21
事業報告 フィリピン	08	数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年	22
事業報告 ネパール	11	2024年度会計報告	23
事業報告 スリランカ／ベトナム	14		

チャイルド・ファンド・ ジャパン 事業概要

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。活動を通じ人と人が出会い、お互いに理解を深め、つながることを大切にしています。



1 地域開発支援事業

スポンサーシップ・プログラム

貧しさの中で暮らす子どもたちの健やかな成長、家族と地域の自立を支援するプログラムです。教育、保健・栄養、就業支援、子どもの保護などの支援を届けるとともに、支援者との手紙の交流を通じて、精神的にも子どもを支えています。2024年度は、フィリピン9カ所、ネパール1カ所、スリランカ3カ所で支援を行いました。

チャイルド・ボイス・プログラム (ボイス・サポーター)

フィリピンの都市貧困地域で、学校を拠点に教育などの支援を届けるプログラムです。2024年度より開始しました。支援者は、動画などを通じて、現地の状況や子どもの声に触れることができます。

支援プロジェクト

貧困に起因する特定の開発課題に応える支援事業です。2024年度は、フィリピンで2件、ネパールで4件、ベトナムで1件、日本国内で1件のプロジェクトを実施しました。

2024年度の活動の概要

今年度は、新しい中期計画の初年度となりました。2028年3月までに、多様な価値観とチャレンジ精神を持った人材が最大限力を発揮できる子ども支援の専門組織となることを目指して、①提案型支援の徹底、②資金調達方法の最適化、③多様な働き方の推進、④スタッフの専門性強化を行います。本年度は特に以下の取り組みを進めました。

1. 提案型支援の徹底

ネパール女子支援事業(子どもを守るコミュニティ形成プロジェクトの一環)を形成し、協賛企業への提案などを通して、支援を呼びかけました。

2 緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援します。2024年度は、スリランカの経済危機に対する支援、ウクライナ緊急支援、パレスチナ・ガザ緊急支援の計3件を実施しました。

3 広報・啓発・提言事業

支援地の実態や団体の支援活動を広めたり、子どもを暴力から守るための制度づくりに取り組んだりする事業です。2024年度は、昨年度の活動を引き継ぎながら、OSEC(子どもへのオンライン性搾取)をなくすための啓発、政策提言活動を推し進めました。また、他のNGOと連携し、日本政府に対して、教育協力政策の拡充を求める活動を行いました。

2. 資金調達方法の最適化

新たな支援のあり方として、「チャイルド・ボイス・プログラム(ボイス・サポーター)」を開始しました。

3. 多様な働き方の推進

より多様なボランティアが協力できる機会づくりを行いました。また、外国人採用の可能性に向けて駐在員の人事制度の見直しに着手しました。

4. スタッフの専門性強化

各種の研修を職員それぞれが受講するとともに、アジアでの自然災害への緊急支援能力を向上させるため、日本・韓国・台湾の関連組織と合同研修を計画しました。

チャイルド・ファンド・ ジャパンの1年

1年を振り返って

2024年度は、フィリピン・マニラ首都圏でスポンサーシップ・プログラム、および新しい寄付プログラム「チャイルド・ボイス・プログラム（ボイス・サポーター）」を開始するとともに、ネパールでは、女の子たちへ支援を届けるクラウドファンディングを行いました。

パレスチナ・ガザなどへの緊急支援も引き続き行いながら、日本においては、生成AIがつくる児童性的コンテンツのアドボカシー活動に力を入れました。



4月

スリランカの子どもたちに 自転車をお届けしました！

バスの運賃が高騰し、今まで以上に学校へ通うことが困難になったスリランカの子どもたちに自転車をお届けしました。この支援では、在スリランカ日本国大使館の協力のもと、日本の自治体から中古自転車の提供を受けました。自転車を受け取った子どもたちは、すいすいと乗りこなし、笑顔を見せていました。



5月

福岡ソフトバンクホークス 近藤健介選手、 成績連動型寄付を開始！

近藤健介選手が、ホームラン1本につき10万円、ヒット1本につき1万円の成績連動型の寄付を開始し、野球を通してアジアの子どもたちに教育支援などを届けてくださいました。

8月には、スリランカの子どもたちから、応援メッセージとともにクリケットのバットをお送りしました。



6月

グルーミング(性的手なづけ)に 関する若者への調査結果を公開

性搾取から子どもと若者を守るための取り組みとして、若者を対象にしたグルーミングに関する調査を行いました。オンラインで性的画像や面会等の要求を経験したことがある人は12.4%にのぼり、そのうち相談したのは4.7%にとどまることなどが分かりました。

6月

活動報告会 in 大阪 開催！

2023年度に続き、対面での活動報告会を開催しました。フィリピンの支援地域を訪問したスタッフが支援活動を報告し、会場には、フィリピンの伝統工芸品や遊び道具も展示して、文化をより身近に感じられるように。参加者からは「現地の実情や支援の必要性がよく分かった」とコメントをいただきました。

2024▶

4月

5月

6月

7月

8月

9月

4月

シンポジウム「生成AIの 子どもの権利への脅威」を 開催

国連大学で、イギリスの非営利団体インターネット・ウォッチ・ファンデーションのCEOスージー・ハーグリーブス氏を招き、生成AIがつくる児童の性的虐待コンテンツ（CSAM）から子どもたちを守るためのシンポジウムを開催しました。



5月

フィリピン・西ネグロス州の 支援地域が支援から自立

1991年から支援を開始した西ネグロス州では、32年間で884名の子どもたちがスポンサーシップ・プログラムの支援を受けました。子どもたちへ学用品の支給を行ったほか、保護者に教育の大切さを理解してもらうことで、高校卒業率が99%になるなど大きな成果がありました。



7月

フィリピンの都市スラムで 子ども支援スタート！

「子どもの保護」の支援プロジェクトを行っていたフィリピンのマニラ首都圏において、スポンサーシップ・プログラムによる支援を開始しました！また、動画やオンラインツアーで子どもの「声」を感じることができるよう新たな寄付プログラム「チャイルド・ボイス・プログラム（ボイス・サポーター）」を立ち上げました。



10月 フィリピン マニラで サイクロン緊急支援を実施

10月にフィリピンのマニラを襲ったサイクロン“クリスティン”の被害に対し、120以上の世帯へお米や缶詰などの食料セットと石けん等を提供しました。



11月 フィリピン・オンラインツアー 実施

『第1回 フィリピン オンラインツアー』を開催し、マニラ首都圏のスラムの様子を、ウォークスルーや家族へのインタビュー動画を通してお伝えするとともに、現地の子どもたちと中継をつなぎクイズに挑戦するなど楽しく交流しました！参加者からは「現地の子どもたちの声が聞けて良かった」などと感想をいただきました。



12月 「杉並区民の手でネパールの 子どもたちに教育を！」 キャンペーン第15弾

書き損じハガキや未使用切手を集めて、ネパールに教育支援を届けるキャンペーンの第15弾を行いました。2024年度より、新たに古本やDVDの寄付も追加し、支援内容も学校建設から教育支援に変更。多くの皆さまからご協力いただき、317,937円のご寄付となりました。



12月 『ネパールや開発途上国の 教育について学ぼう』 オンラインイベント開催！

SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」をテーマに、ネパールや開発途上国の教育について学ぶ、オンラインイベントを開催しました。ネパールや途上国の教育の紹介や、現地スタッフのインタビュー動画を通して、ネパールの子どもの現状を知っていただきました。



3月 フィリピン 南ダバオ州での 保健医療施設建設 プロジェクト開始！

山間地域で暮らすフィリピンの少数民族が、医療サービスを受けられるよう、新たなプロジェクトを南ダバオ州で開始しました。保健医療施設の建設や整備に加え、地域住民へ健康教育を行うことで、地域医療の改善に貢献します。

3月 多文化共生フォーラム Living Together in Suginamiを開催

「多文化共生フォーラム」を開催し、地元杉並区在住・在勤の方にご参加いただきました。当日は、杉並区長 岸本氏や外国にルーツのある子どもの保護者2名を交えてパネルディスカッションを行い、多文化共生に向けた取り組みや展望を話し合いました。



3月 ミャンマー地震緊急支援の 寄付受付を開始

3月に発生したミャンマー大地震を受け、被災地の子どもたちを支援するため、ご寄付の受付を開始しました。現地では、食料・水、生活必需品の支援などを行う予定です。

10月

11月

12月

2025 ▶

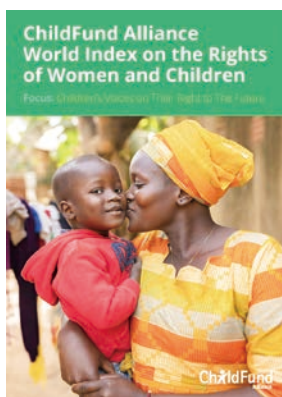
1月

2月

3月

11月 「女性と子どもの権利に 関するワールド・インデックス」 を公表

チャイルド・ファンド・アライアンスは、「女性と子どもの権利に関するワールド・インデックス」を公表しました。今年は、「子どもと若者の未来への権利」に焦点をあて、41カ国から1万人の子どもたちの意見を聞き、彼らの不安、希望、夢について取り上げました。



1月 ネパール女の子支援 クラウドファンディングを実施！

厳しい環境に置かれたネパールの女の子たちを支援するため、クラウドファンディングに挑戦し、ネパールの女の子たちに、学用品やソーラーライト、性教育などを届けました。支援を受けた女の子からは、「夜間でも勉強できるようになって嬉しい」と喜びの声がありました。



3月 ネパール「子どもにやさしい 学校づくりプロジェクト」が 完了

2022年からネパール ゴルカ郡で開始した「子どもにやさしい学校づくりプロジェクト」。子どもたちが楽しく学び、学力を向上できるよう、校舎建設やトイレの設置、防災や教員研修を行っていましたが、この度プロジェクトが完了しました。プロジェクトには、地元行政も参加するようになり、今後は自主的に研修を行っていきます。



地域開発 支援事業

子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う「スポンサーシップ・プログラム」、貧困に起因する様々な問題において特定の開発課題に応える「支援プロジェクト」などを実施しています。



チャイルド・ファンド・ジャパンが取り組む6つの分野

母子保健	保健研修などを通して、妊婦と乳児の健康を守ります。	乳幼児栄養	栄養価の高い食事の指導、家庭菜園支援などを通して、乳幼児の栄養改善を行います。	教育	学用品支給、先生への研修などを通して、子どもたちが学校に通い、質の高い教育を受けられるようにします。
青少年育成	職業訓練、就業支援などを通して、青少年が自立していけるように支援します。	子どもの保護	保護者への研修や地域への啓発を行い、子どもたちがあらゆる暴力から守られるようにします。	アドボカシー	子どもの権利に関して、行政や政府へ働きかけ、制度や法律を整えていきます。

Sponsorship Program スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長できるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたち(チャイルド)には、教育や保健・栄養など一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指し、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的な視野にたった支援を行います。

スポンサーシップ・プログラムが 目指す2つのゴール

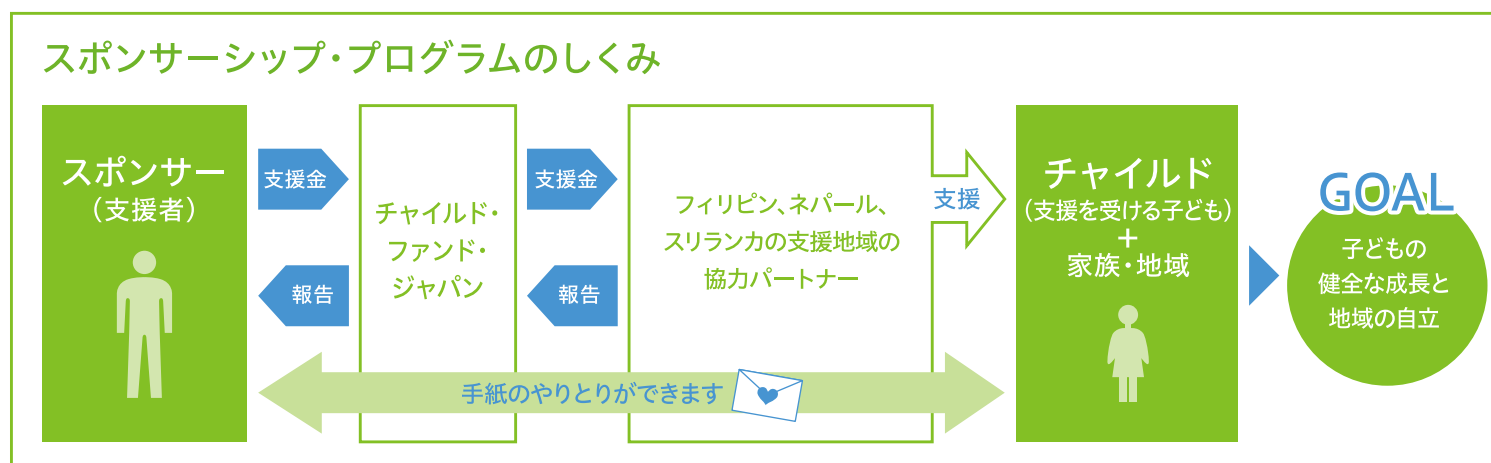
GOAL 1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。

GOAL 2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、小規模事業資金の融資などを行っています。

スポンサーシップ・プログラムのしくみ



Child Voice Program

チャイルド・ボイス・プログラム
(ボイス・サポーター)

フィリピン・マニラ首都圏の都市貧困地域で暮らす子どもたちへ支援を届けるプログラムです。学校を拠点として、教育を中心に、栄養や子どもの保護などの支援を届けます。支援者は、動画などを通じて、現地の状況や子どもの声に触れることができます。

Special Assistance Program

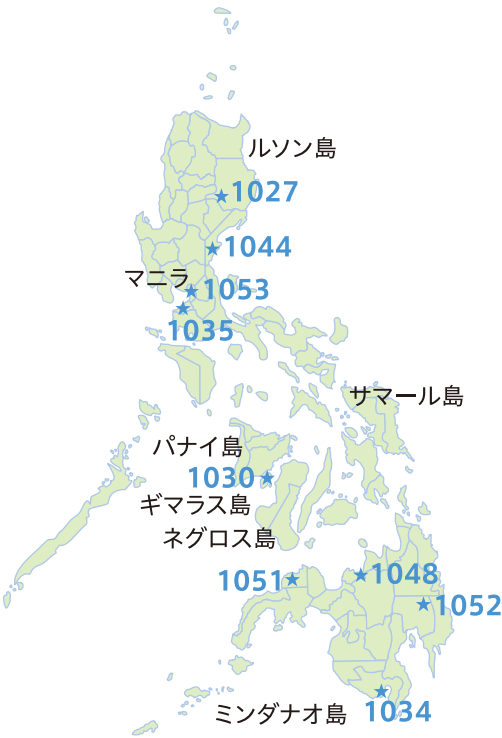
支援プロジェクト

支援プロジェクトは、貧困に起因する様々な問題のうち特定の開発課題に応える事業です。学校環境整備、子どもの権利、児童労働、早期婚、保健、栄養、安全な水へのアクセス、収入向上、小規模ビジネス、協同組合事務所、少数民族など、その地域、環境において必要とされる課題に取り組んでいます。スポンサーシップ・プログラムなどと相互補完的に、子どもたちの健全な成長を支えています。

2024年度 スポンサーシップ・プログラム支援地域一覧

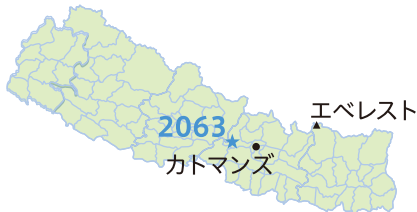
フィリピン

プログラム番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
1027	北部ルソン イサベラ州	388名	2024.6～2027.5	Pamanang Panuluyan ng La Salette, Inc.
1030	中部ビサヤ諸島 ギマラス州	336名	2024.6～2027.5	Community Partnership for Integral Child Development Center
1034	南部ミンダナオ 南コタバト州	415名	2024.6～2027.5	Notre Dame Business Resource Center Foundation, Inc. (NDBRCFI)
1035	北部ルソン カビテ州	345名	2024.6～2027.5	Magdalena Human Development Foundation
1044	北部ルソン オーロラ州	452名	2024.6～2027.5	St. Francis Center - Integrated Area Development for Aurora, Inc.
1048	南部ミンダナオ 東ミサミス州	324名	2024.6～2027.5	Pedro Calungsod PEACE Center
1051	南部ミンダナオ 北サンボアンガ州	452名	2024.6～2027.5	Mindanao Resource Institute for Community Empowerment Inc. (MINRICE)
1052	南部ミンダナオ 北ダバオ州	252名	2024.6～2027.5	Davao Medical School Foundation, Institute of Primary Health Care
1053	マニラ首都圏	100名	2024.6～2027.5	SM ZOTO Inc. Child Development Center
		計 3,064名		



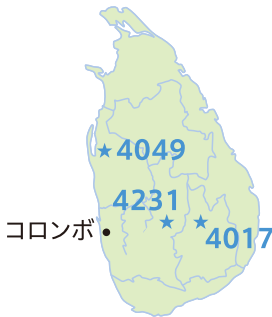
ネパール

プログラム番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
2063	ダーディン郡	600名	2022.4～2028.8	PRAYAS Nepal
		計 600名		



スリランカ

プログラム番号	事業地	チャイルド支援数*2	事業期間	協力パートナー
4049	ブッタラム県	74名	通年	ChildFund Sri Lanka直轄
4231	ヌワラエリヤ県	112名	通年	T-Field Child Development Federation
4017	モナラーガラ県	192名	通年	ChildFund Sri Lanka直轄
		計 378名		



*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。 *2.数字は2025年3月31日時点。

PHILIPPINES フィリピン

2024年度
支援チャイルド数

3,064

支援対象 フィリピンの各支援地域のチャイルド3,064名と
その家族約12,256名
事業費 174,231,000円
事業期間 5年毎の長期(毎年6月～5月)

フィリピンでは、ルソン、ビサヤ、ミンダナオ地方にある9カ所の事業地で、29の村に暮らす3,064名のチャイルドとその家族、計12,256名を対象に支援を行いました。教育と子どもの保護を重点分野とし、子どもの健やかな成長と地域の自立を目指して、様々な取り組みを継続しました。

Sponsorship Program スポンサーシップ・プログラム

教育と心身の成長を支える支援

2024年度も、子どもたちの学びと健康を支える取り組みを柱に支援を行いました。学用品の支給や学習支援、健康診断、歯科検診などを通して、学びの環境を整え、子どもたちの健やかな成長を後押ししています。特に健康面では、検診の結果をもとに必要な応じた医療費の支給も実施し、一人ひとりに寄り添った個別のケアを行いました。栄養改善にも注力し、家庭菜園用の種子を配布して家庭での食料確保を支援したほか、ビタミン剤や栄養補助食を届け、栄養状態の向上を図りました。

さらに、リーダーシップや価値観に関する自己啓発セミナーも実施しました。これらのセミナーでは、自分の考えを言葉にする力や、他者と協力する姿勢など、学力以外の力も育まれています。子どもたちが将来、自立して社会に関わっていくための基礎を築くことがねらいです。

子どもたちと関わる周囲の大人への支援も継続しました。保護

者や地域住民に対しては、公衆衛生、子どもの権利と責任、メンタルヘルスなどをテーマにした研修を行い、子どもを取り巻く環境の質を改善する取り組みを進めています。あわせて、保護者には収入向上を目的とした技術研修を提供し、経済的な安定を支えることで、子どもたちの生活環境の改善にもつなげています。教育予算が不足している学校には、備品や消耗品を提供し、学習環境の維持にも貢献しました。



手洗いなど衛生習慣についても学びました

地域全体で子どもを様々なリスクから守る

災害や暴力など、様々なリスクから子どもを守る取り組みも地域全体で推し進めました。地域の住民組織に対して、組織運営の支援を行ったほか、地域の防災対策や災害発生時の対応について、連携体制を整備しました。

また、子どもや保護者、行政関係者を対象にした子どもの保護に関する研修には、近年深刻化しているオンラインでの子どもの性搾取や虐待(OSAEC-Online Sexual Abuse and Exploitation of Children)防止の内容も組み込みました。

こうした研修を通して、災害時や子どもが暴力を受けた際などの地域の対応能力が向上しています。



災害について考え、発表する子どもたち

支援地域の自立と持続可能な発展

2024年5月、西ネグロス州の支援地域が、支援から自立しました。1991年から32年間にわたり、教育、保健・栄養、子どもの権利啓発、防災などの分野で支援を行い、884名のチャイルドに支援を届けてきました。特に教育支援に力を入れ、学用品の支給や教育の重要性を伝える活動を通して、2014年～2024年の高校卒業率は99%を記録しました。加えて、健康診断や医療支援、青少年の課題に関する啓発活動、防災計画づくりや緊急持ち出しバッグの支援なども進めました。

こうした支援を通して、子どもたちの教育や就労支援が地域や家族の力によって継続される体制が整い、自立が確認されました。



住民組織の集まりの様子

Child Voice Program

チャイルド・ボイス・プログラム (ボイス・サポーター)

背景と事業目的

フィリピンのマニラ首都圏には、教育や衛生環境が十分でない都市貧困地域があります。こうした地域に暮らす子どもたちとその家族を対象に、教育や健康、子どもの保護の分野での支援を行い、質の高い教育の確保や健やかな成長を目的としています。

活動概要と成果

チャイルド・ファンド・ジャパンは2024年より、マニラ首都圏の都市貧困地域での子ども支援を本格的に開始しました。スポンサーシップ・プログラムでの支援に加え、このチャイルド・ボイス・プログラムでは、学校を拠点に活動を展開するなどして、効率的でよりインパクトの大きい支援となるようにしています。

2024年度は、対象の地域の子どもたちに対して、学用品の配布を行い、日々の学びを支える環境づくりに取り組みました。また、口腔衛生の改善を目的とした歯みがき指導や衛生用品の提供により、日常的な健康管理の意識向上を図りました。さらに、「子どもの

協力パートナー	SM-ZOTO *マニラ首都圏において、子どもの保護などの活動に取り組む現地NGO
支援対象	マニラ首都圏の小学校の子どもとその家族 計1,658名
支援規模	1,810,000円
事業期間	2024年4月1日～2027年3月31日

権利」や「子どもへの暴力の撤廃」をテーマとしたアートコンテストを実施し、子どもたち自身が子どもの権利についての意識を高め、学校、地域の啓発へとつながるようにしました。



衛生用品の配布を行ったときの様子

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

みんなで守る 子どもの権利プロジェクト

協力パートナー	フィリピンの各支援地域の協力団体
支援対象	南ラナオ州、南コタバト州、北サンボアンガ州、イサベラ州 の子ども、教員、保護者等 計7,688名
支援規模	14,008,000円
事業期間	2024年4月1日～2025年3月31日

背景と事業目的

フィリピンでは、教育や衛生、子どもへの暴力など、子どもの権利が脅かされている実態がまだまだ多くあります。本事業では、スポンサーシップ・プログラムなどの中長期の活動を補完し、教育や衛生環境の整備などを通して、子どもの権利の保障と将来の選択肢の拡大を目指しています。

活動概要と成果

2024年度は、南ラナオ州での幼児教育施設の建設をはじめ、多様な資金をもとに様々な活動を行いました。

南ラナオ州では、独立した施設を所有していなかった幼児教育の組織に対して、建物と手洗い場を建設しました。地域住民の協力を得ながら資源やコストを分担することで、支援の持続可能性を高めました。これにより、子どもたちが衛生的な環境で過ごせるようになったほか、家族や教員、地域関係者の間で子育てや子どもの権利に関する理解が深まりました。また、今回の協働を通じて、地

域内における信頼関係が築かれ、今後の活動の基盤形成にもつながりました。

南コタバト州と北サンボアンガ州では、公立高校の教室や衛生施設の改修、調理実習室の新設を行いました。これにより、生徒の過密状態が緩和され、特に女子生徒が安心してトイレを利用できるようになったほか、調理コースの開講によって将来の就業に向けた選択肢が広がりました。

イサベラ州では、5つの小学校に図書コーナーを整備し、書籍を提供しました。読書活動の活性化を通じて、読解力の向上が促され、コロナ禍による学力低下の克服に貢献しました。



完成した幼児教育施設と子どもたち

Special Assistance Program 2

支援プロジェクト 2

フィリピン南ダバオ州の山間に住む 少数民族の保健医療アクセス改善事業

協力パートナー	ダバオ医科大学
支援対象	南ダバオ州の子ども、家族、地域住民 計8,892名
支援規模	431,000円 (外務省NGO連携無償資金の助成により実施)
事業期間	2025年3月19日～2026年3月18日

背景と事業目的

事業地域は山間部で、そこに暮らす少数民族は、地理的・経済的理由から十分な保健医療サービスを受けにくい状況にあります。本事業では、医療施設の建設や健康教育を通じて、保健医療へのアクセス改善を図ります。

活動概要と成果

2024年度末に事業が開始され、保健医療施設の建設に向けた準備などを進めています。本格的な活動は2025年度となり、施設の建設作業、医療資機材の提供、施設運営のための保健省の認証の取得などを行うとともに、地域住民への健康教育を行い、地域全体の医療環境の改善につなげていく予定です。



建設予定地の様子

NEPAL ネパール

2024年度
支援チャイルド数

600

支援対象 ネパール・ダーディン郡のチャイルド600名および
同校の生徒とその家族、地域住民 計12,023名
事業費 58,561,000円
事業期間 5年毎の長期（毎年4月～3月）

ネパール・ダーディン郡において、19校の公立学校に通う子どもたちや家族、地域住民を対象に支援を行っています。学校と家庭の両方で子どもにやさしい学習環境づくりを進め、出席率や学力の向上に取り組みました。学校運営の体制強化にも重点を置き、学校と地域が連携して子どもたちの学びを支える仕組みづくりを推進しました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

子どもにやさしい学習環境の整備

学校と家庭で、子どもたちが安心して学び続けることができる環境を整えました。600名のチャイルドに対して文房具や制服などの学用品を配布し、17校の就学前教育の教室には机や椅子、カーペット、収納棚といった備品を提供しました。支援を受けたことにより、保護者も、子どもを継続的に学校へ通わせようとする意識が高まり、教育に対する理解や関心の向上にもつながっています。

また、教育の質を高めるために教員への研修も実施しました。子ども参加型、子ども中心の指導法に関する内容で、実践的なトレーニングを行いました。その結果、適切な教授法を取り入れる教員の割合は6%から20%に増加しました。さらに、教育省の基準に基づく最低限の教育環境条件を満たす学校も、0%から22%に向上。学びの場の質の向上が見られました。

さらに、補習授業のサポートも行い、子どもたちが授業にしっかりとついていけるようにしています。

これらの支援により、子どもたちの出席率は支援前の44%から68.6%まで改善されてきており、子どもたちが学び続けることのできる環境が整ってきています。



補習授業に参加する子どもたち

学校運営と地域の協力

教育の持続可能性を支えるには、学校の運営体制の強化が欠かせません。そのため、学校運営委員会(SMC)やPTAと連携し、活動計画の策定や見直しを支援しました。また、学校の現状を可視化し、改善点を明確にするための支援も行い、こうした活動を通して、運営の質において基準を満たす学校の割合は0%から47%に向上しました。

地域との連携も進めています。学校の課外活動や行事には1,042名の保護者が参加し、家庭と学校の関係強化に貢献しました。保護者が学校運営や教育活動に関心を持ち、積極的に関与することで、保護者が教育の重要性を認識し、子どもたちが学校に通い続けるための大きな力になっています。



SMC、PTAの会議の様子

子どもの安全に関する取り組み

子どもたちが自分の権利や地域での役割について考えるきっかけとして、子どもクラブの活動も支援しました。224名の子どもたちがクラブの活動に参加し、暴力からの子どもの保護や、参加の権利などの子どもの権利について学びました。こうした取り組みは、子どもたちの安全を守るだけでなく、子どもの主体性を育み、地域や社会で活躍できる能力を伸ばすことにもつながっています。

その他、経済的に困難な家庭への支援として、保護者が収入を得やすくなるような生計向上支援のガイドラインも整備しました。教育、安全、家庭、地域連携といった多面的な取り組みによって、子どもたちの健やかな成長が支えられています。



子どもクラブの役割や責任について学ぶ子どもたち

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト(第2期)

協力パートナー

UNG(Unification Nepal Gorkha)

*ゴルカ郡で教育支援や衛生事業を行う現地NGO

PRAYAS Nepal(Prayatnashil Community Development Society)

*貧困地域の子どもや女性に対し、教育や生活支援を行う現地NGO

支援対象

ゴルカ郡とダーディン郡の生徒・教員・地域関係者 計1,743名

支援規模

32,798,000円

事業期間

2024年4月1日～2025年3月31日

背景と事業目的

このプロジェクトは、学校や地域の人々とともに、教育を中心に子どもが健全に成長できる環境を整えることを目指しています。「生徒の学力と出席率の向上」「学校の環境整備」「先生や学校運営委員会の能力強化」などの支援を行っています。

活動概要と成果

ゴルカ郡の公立校1校において、男女別トイレ、さらに幼児から中学生までの身長に応じた複数の蛇口を備えた手洗い場を建設しました。トイレにはスロープも設置し、車椅子の子どもも使える広い個室も設けています。すべての子どもが清潔なトイレを利用でき

るようになり、衛生習慣の定着にもつながりました。

ダーディン郡では、教職員の研修の場として地域の拠点校の敷地内にコミュニティ・ラーニング・センター(CLC)を1棟建設し、内装も整備しました。教員が研修を受けられる環境が整ったことで、教員間の知識や経験の共有が進み、教育の質の向上が期待されています。

また、同郡では女子生徒399名を対象に、学用品やソーラーライトを配布し、月経などに関する研修を実施しました。これにより、女子生徒が健康や衛生への理解を深め、安心して通学・学習に取り組めるようになりました。



夜でも勉強ができるようにソーラーライトを配布

Special Assistance Program 2

支援プロジェクト 2

■ シンドゥパルチョーク郡での「子どもの安全と保護のための子どもにやさしい学校」能力強化プロジェクト

協力パートナー	TUKI (Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校12校の生徒1,399名、教師110名、学校運営委員会/PTA 213名、保護者2,854名など計4,636名
支援規模	44,872,000円(チャイルド・ファンド・コリアからの資金により実施)
事業期間	2023年8月4日～2026年3月31日

活動概要と成果

学校や地域社会に対して、ジェンダーに起因する暴力、暴力を用いない子育てについての研修を実施するとともに、暴力にあつてしまった子どもへの対応をするピアカウンセラーの育成にも取り組みました。生徒自身にも、性暴力やネットでのいじめへの対応方法を伝えています。

こうした活動を通じて、教師は差別や暴力を使わない指導を実践できるようになり、女子生徒はジェンダー差別を意識して生活するようになりました。また、地元行政でジェンダーに起因する暴力を撤廃する条例が制定されるなど、地域全体の意識向上につながっています。

背景と事業目的

学校教育において子どもの安全と権利が守られること、女子生徒や社会的に脆弱な生徒たちが安心して過ごせることを目的として、教師や保護者への啓発活動、研修などの支援を行っています。

Special Assistance Program 3

支援プロジェクト 3

■ 少数民族などの子どもの未来を開く子どもにやさしい学校づくりプロジェクト(3年次)

(ゴルカ郡の先住民族やダリットなど、社会的に不利な立場の人たちが多く住む地域の学習環境改善事業)

協力パートナー	UNG(Unification Nepal Gorkha) *ゴルカ郡で教育支援や衛生事業を行う現地NGO
支援対象	ゴルカ郡の公立学校4校の生徒、教師、学校運営委員会、保護者15,679名
支援規模	83,428,000円(外務省NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2024年3月31日～2025年3月30日

活動概要と成果

ネパール政府の基準に基づき、中等学校に耐震性の高い校舎(8教室)と手洗い場を建設しました。教職員や学校運営委員会などを対象に、「子どもにやさしい学校づくり研修」も実施し、各校で行動計画が策定されました。また、教師には子ども中心の授業法や教材制作に関する研修を行い、実際に教室内に様々な教材が掲示されるなど、実践が広がっています。

こうした一連の活動を地域と連携して進めたことにより、地元自治体が子どもにやさしい学校づくりの活動を予算化するに至りました。地域が持続的に、教育環境を整えていく体制ができてきています。

※昨年完了した2年次事業についても、今年度、報告・監査等の活動のみを行い、事業費は466,000円となった。

背景と事業目的

ゴルカ郡は、ダリット(カースト制度に属さない不可触民とされる人々)や少数民族など、社会的に不利な立場の人たちが多く、学校の中途退学も多い地域です。地震に強い校舎建設とともに、教職員への能力向上研修、保護者や自治体への働きかけを行い、地域が一体となった子どもにやさしい学校づくりを目指します。

Special Assistance Program 4

支援プロジェクト 4

■ 安全な移民事業

支援対象	ネパールから日本へ移住する子どもとその家族約30,000名
支援規模	1,074,000円
事業期間	2024年4月1日～2025年3月31日

ネパールから日本へ移住する子どもと家族が安全に移住できるよう、出国前オリエンテーションのマニュアルを整備しました。また、移住後に役立つ教育情報サイトを立ち上げました。

SRILANKA

スリランカ

2024年度
支援チャイルド数

378

支援対象 スリランカのブッタラム県、ヌワラエリヤ県、モナラーガラ県の
チャイルド378名とその家族 合計約1,512名
事業費 18,774,000円
事業期間 5年毎の長期(毎年7月～6月)

スリランカでは、チャイルド・ファンド・インターナショナル(アメリカのチャイルド・ファンド)と連携し、支援を行っています。今年度は、3つの地域で378名のチャイルドとその家族、あわせて1,512名を対象に、子どもたちの成長を支える包括的な支援を行いました。乳幼児期・学齢期・青少年期の3つのライフステージに分けて、栄養、教育、職業訓練などの支援を続けています。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

発見するツールについて学ぶとともに、様々な障がいの種類、それに対する対応の仕方などを学ぶことで、先生たちは子どもたちの発達の問題により早く気づき、適切な対応をとることができるようになりました。

子どもの発達を支えるための基盤づくり

乳幼児期の子どもを対象とした活動では、母親リーダーを通じた子育てについての教育を継続しました。乳幼児が心身ともに健全に育つよう、乳幼児期の栄養や健康等について理解を深め、それを実際に実践できるように研修を行い、講義、ディスカッション、実演・実習、好事例の共有などを通して、実践的なスキルを高めています。母親リーダーは、家庭訪問も適宜実施して、個々の家庭が抱える個別の問題に対して、アドバイスを行うなどしています。

この取り組みによって、親の子育てに対する理解や食生活に関する態度が改善され、子どもの栄養状態が改善されたほか、親自身の心身の健康にも良い影響が見られるようになりました。

また、幼稚園教員を対象に、発達障がいなどの早期発見と対応に関する研修を実施しました。REACHと呼ばれる発達の遅れを



研修を受けた先生が子どもと接する様子

学びを支える継続的な支援

学齢期の子どもたちに対しては、通学費や学用品の支給を行い、教育の継続を後押ししました。特に、国語や数学については、補助教材やデジタル教材を活用した支援を実施。コロナ禍の休校などで低下していた学力が回復し、平均点が上昇し始める成果が見られました。

また、教師を対象に、子どもにやさしい教授法を学ぶ研修も実施しました。教員が一方向的に指導するのではなく、子ども中心の授業を目指した内容で、教育の質の向上に寄与しています。

さらに、子どもたち自身には、Social Emotional Learningと呼ばれる、社会性や自己理解、対人関係能力などに関する研修を継続して行い、仲間と協力しながら物事に取り組む力や、気持ちを表現する力の育成にも取り組んでいます。



デジタルデバイスで数学の学習をする子ども

青少年の将来に向けた準備

青少年期の子どもたちには、リーダーシップ育成や環境保護活動、職業訓練の場を提供しました。特に高校生を対象としたキャリア・ガイダンスでは、将来の職業選択や進学に向けた具体的な相談の機会を設け、実際に進路を決定する上での助けとなっています。また、女子生徒向けの英語とデジタル教育のプログラム（EDGEプロジェクト）は、女の子たちのスキルを高め、将来の就業につなげるための貴重な機会となっています。

さらに、若者たち自身が主体的に活動し、自らの進路を切り開こうとする姿勢が育まれています。年上の子どもたちから年下の子どもたちへと知識や経験を伝える「カスケード方式」の学びも定着しつつあり、持続可能な学びのサイクルが地域に根づいています。



EDGEプロジェクトでITスキルを高める女の子たち

VIETNAM ベトナム

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

協力パートナー

カオバン省保健局

支援対象

カオバン省の5歳未満児とその保護者、保育士、幼稚園教諭、ヘルスワーカー等計3,220名

支援規模

233,000円

事業期間

2022年12月1日～2025年3月31日

背景と事業目的

プロジェクトの支援地域では、母子保健に関する資源や情報へのアクセスが限られています。5歳未満の子どもたちが適切な母子保健サービスを受けられる環境の整備を目指して活動しています。

活動概要と成果

カオバン省の33の集落において、発育状況をチェックするための身長計と体重計を配備するとともに、拡声スピーカーを整備しました。身長計と体重計は、一次保健医療施設だけではなく、巡回診療時には持ち運んで使用することで、発育のチェックがより広範囲で実施可能となりました。また、拡声スピーカーによって、妊産婦健診などの受診呼びかけが効率的に行えるようになり、地域の保健サービスの充実につながりました。

Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

外国にルーツをもつ子ども支援プロジェクト

支援対象 外国にルーツをもつ子どもたち17名とその保護者
支援規模 7,060,000円
事業期間 通年

背景と事業目的

当団体のある東京都杉並区では、ネパールを中心に海外からの移民が増えており、区内の公立小中学校に通う外国にルーツのある子どもも増えています。しかし、学校側の受け入れ態勢が十分ではなく、子どもは言語や文化の違いにより学習に困難を抱えるケースが少なくありません。本事業では、子どもたちの学びを支えるとともに、保護者のサポートや地域と連携した多文化共生地域づくりを目的としています。

活動概要と成果

外国にルーツのある子どもたちが安心して学べる場として、「学びのフレンドリースペース（フレスペ）」を杉並区内で週1回開催しました。通年でのべ17名の小中学生が登録し、日本語や教科学習のサポートを受けました。支援には、日本語教育の資格をもつコーディネーター5名と、学習支援ボランティア13名が参加し、一人ひとりの理解度や背景に応じた支援を行いました。加えて、日本の行

事やゲームを通じた交流、エルサルバドル料理をつくる料理教室など、子どもたちが楽しみながら文化に親しむ機会も設けました。

保護者に対しては、杉並区在住の外国ルーツ家庭のニーズ調査を行い、子育てや教育への不安や課題を把握しました。2025年3月には、同調査の結果をもとに「多文化共生フォーラム」を開催。杉並区長、保護者、NPOが登壇するパネルディスカッションを通じて、地域の理解促進と支援体制の必要性を共有しました。

さらに、行政、大学、NPO等と連携して「多文化共生コンソーシアム」を継続的に運営し、官民の情報共有と政策提言の場を提供しました。杉並区では「多文化共生基本方針」が策定・承認され、地域全体での共生社会づくりの推進につながりました。



フレスペは子どもたちの「居場所」となることを大切にしています

緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。チャイルド・ファンド・ジャパンは緊急・復興支援のためのガイドラインに沿って、被害の規模や支援体制の整備状況などを踏まえて支援を実施しています。

スリランカ 中古自動車支援事業

Sri Lanka

支援対象 モナラーガラ県など8県の子どもたち517名
支援規模 0円(昨年度に支出済み)
事業期間 2022年8月～2024年4月

背景と事業目的

スリランカでは経済危機による物価高騰で、交通手段を確保できない家庭が急増し、特に教育や就業の機会に影響が及んでいます。生活再建を支援するため、日本から中古自転車を提供し、移動手段の確保を目指しました。

活動概要と成果

本事業では、在スリランカ日本国大使館の要請を受け、日本の5つの自治体から寄贈された中古自転車をスリランカに輸送し、各地で配布しました。事業活動は2023年度までにそのほとんどが完了していますが、2024年4月に、スリランカ現地で日本大使館、スリランカ教育省とともに、引渡し式典が行われました。子どもたちは交通手段を得たことで、教育や就労の継続が可能となり、生活の安定につながる支援となりました。

ウクライナ国及び周辺国緊急支援事業

Ukraine/Moldova

支援対象	ウクライナ国内避難民、モルドバのウクライナ難民
支援規模	1,555,000円
事業期間	2022年3月～

背景と事業目的

2022年2月のロシアによる武力侵攻以降、ウクライナでは長期にわたり人道危機が続いています。国内外で避難生活を余儀なくされている人々を対象に、基本的な生活支援や教育支援、心のケアを届けることを目的として緊急支援を行っています。

活動概要と成果

本事業は、チャイルド・ファンド・アライアンスのメンバー団体である、チャイルド・ファンド・ドイツ、WeWorld(イタリア)が中心となって支援を届けています。

戦闘により被害を受けた水道インフラの復旧支援として、病院や医療施設への給水・排水設備の修復や、衛生用品の提供を行いました。住環境の支援では、避難所の設備改善に加え、損傷を受けた民家の修繕費用を支援し、自宅で暮らす人々が少しでも安心して生活できるよう取り組みました。

教育分野では、子どもたちが空爆時に安全に避難できるよう、防空シェルターの設置を支援しました。また、地雷の危険性に関

する啓発活動も展開し、子どもたちの安全な行動につながるよう努めました。

心のケアの面では、地域のセンターや女性支援スペースを活用して、子どもや女性を対象にした心理的サポートを実施。加えて、トラウマに対応できる人材の育成にも取り組み、支援の持続可能性を高める体制づくりを進めています。

また、冬季には、防寒具や暖房器具、毛布の配布を行い、厳しい冬を乗り切るための越冬支援を実施しました。

これらの活動を通じて、困難な状況に置かれた人々の生活と安全、心の安定を多角的に支援することができました。



ヒーターや燃料の支援を受ける子どもと家族

パレスチナ・ガザ緊急支援事業

Palestine Gaza

支援対象	パレスチナ国ガザ地区の被災者
支援規模	1,098,000円
事業期間	2023年10月～

背景と事業目的

ガザ地区では、2023年10月に始まった軍事衝突により約200万人が避難生活を余儀なくされ、人道支援が急務となりました。安全な水と衛生環境の提供を通じ、子どもを含む被災者の健康と尊厳を守ることを目的として緊急支援を行っています。

活動概要と成果

2024年度も引き続き、WeWorld(イタリア)が中心となり、ガザ地区の被災者に対し、基本的な生活インフラの支援を実施しました。

水の支援として、ガザ地区各所で給水車を使って安全な飲料水と生活用水を届け、水不足の深刻な状況を緩和しました。さらに、避難所では水と衛生設備の修理を行い、避難を続ける人々に衛生的な環境を提供しました。避難所の衛生状態を保つために、ゴミの回収や廃棄などの清掃活動も実施しています。

衛生に関しては、物資の提供のみならず、衛生管理を行うコミュニティを設立し、コミュニティを通して、身の回りで使えるものを活用してどのように衛生環境を保っていくかなどを伝える啓発活動を進めています。

また、家庭用衛生キットと生理用品を配布し、感染症の予防や女性の健康維持に寄与しました。これらの支援により、被災者の生活の質と安全性を一定程度確保することができました。

今後は、物資の安定的な供給のために倉庫設立、子どもたちへの学用品の配布、心のケアを目的とした子どもにやさしいスペースの設置も予定しています。

10月の世界手洗いの日には、ゲームなどを通して楽しみながら手洗いについて学びました



広報・啓発・ 提言事業

チャイルド・ファンド・ジャパンは「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」というビジョンの実現のため、広報・啓発・提言事業を重要な活動と位置付けています。一人ひとりの子どもの権利が尊重され、守られるよう、団体や活動に関する情報を広く発信します。また、チャイルド・ファンド・アライアンスと協働して、世界各国の政府、国連機関へのアドボカシー（政策提言）の活動も強化しています。



アドボカシー（政策提言）活動

生成AIによるCSAM（児童性的虐待コンテンツ）をなくす

生成AIによるCSAM（児童性的虐待コンテンツ）が国際的に深刻になる中、この新たな脅威について2024年4月に英国NGO インターネット・ウォッチ・ファンデーション（IWF）を招いてシンポジウム等を開催しました。その後、この場に集まった有識者でワーキンググループを結成して、法改正も含めた対策の議論を重ねました。2025年3月には、超党派ママパパ議員連盟や個別の国会議員へ提言を行いました。



IWFのCEOが登場し、生成AIのCSAMについて講演

この提言に合わせて、生成AIによるCSAMについての日本初の世論調査も実施しました。全国の15～79才の男女1,200名に個別訪問留置調査（乗合方式）を行い、生成AIによるCSAMを規制することに多くの人が賛同することが分かりました。

また、2023年6月に刑法の一部改正によって新設された「面会要求等（グルーミング）罪」について、啓発活動に注力しました。

- ①前年度に続き、グルーミング啓発キャンペーンを日本YWCAとゾエジャパンとユースコアメンバー10名（中学生～大学院生）の協力のもと行い、第2回ワークショップを開催して、啓発動画を改善。7月～9月に第2弾の動画を広告配信して、理解度もチェックしました。2つの動画の総リーチ数は12,985,065、理解度チェックへの回答数216件となりました。
- ②前年度に行ったグルーミングについての若者意識調査を追手門学院大学と共同研究し公開しました。
- ③オンラインゲームによるグルーミングについての若者意識調査をインターンと企画し、GMOリサーチ&AIの無償協力により12月にWebアンケートを実施。1,735名の回答があり、その結果のデータを追手門学院大学と共同研究して3月に公表しました。
- ④独立行政法人国立女性教育会館からの依頼により、学校におけるジェンダー研修としてグルーミングについての動画研修を作成。全国の学校関係者を対象に7月～9月に配信されました。

国際教育協力の拡充を促すアドボカシー活動

チャイルド・ファンド・ジャパンも所属するJNNE（教育協力NGOネットワーク）は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の達成のためのアドボカシー活動「SDG4教育キャンペーン」を毎年行っています。

2024年のキャンペーンでは、7月に、NGOスタッフと学校の先生がバングラデシュのロヒンギヤ難民キャンプへの視察を行いました。そして、この現地視察と連動して、「紛争下の教育」をテーマとしたオンライン授業を実施。視察前、視察中に計3回行い、また、日本の中高生とともに特別授業を1回実施しました。これらの授業には計411人が参加し、参加者は、困難な状況下でも学びを継続する子どもたちの姿を知り、日本として何ができるかを考える機会となりました。SNSやウェブサイトを通じてキャンペーン情報を広く発信し、リーチ数は約37,000に達しました。

さらに、紛争下の教育に特化した国際基金「教育を後回しにはできない基金（Education Cannot Wait: ECW）」についてまとめたパンフレットを作成しました。これを国会議員や省庁へ配布するとともに、上記の授業に参加した子ども・ユース・市民から寄せられた143件の声やメッセージを財務省・外務省に届け、教育支援への理解と協力を訴えました。外務省との会合にはチャイルド・ファンド・ジャパンの大学生インターンも参加しました。



作成したパンフレット

メディアへの掲載

今年度は、WEBメディアハフポストで書き損じハガキの寄付が取り上げられたほか、「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンについても、杉並区報などに掲載され、多くの方に支援を呼び掛けました。また、ソフトバンクホークス近藤健介選手へ、成績連動型寄付の感謝状を贈呈したことがYahoo!ニュース等に掲載されました。

さらに、生成AIがつくる児童性的虐待コンテンツ(CSAM)に関するアドボカシー活動については、広く関心を集めました。「NHKおはよう日本」で、生成AIのシンポジウムの様子や招聘したインターネット・ウォッチ・ファンデーションのスージー氏のインタビューが放送されました。また、NHKクロズアップ現代では、チャイルド・ファンド・ジャパンが主導する生成AIのCSAMに関するワーキンググループの活動が取材され、事務局長がインタビューに答えました。

2024年度に活動報告や講演を行った学校や団体など

ご支援、ご協力くださる学校や団体の皆さまに、活動の成果をご報告したり、団体の活動内容をふまえた講演活動などを行ったりしています。

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ・ 青山学院初等部 | ・ 清心中学校・ 清心女子高等学校 | ・ 日本基督教団平塚教会 |
| ・ 青山学院高等部 | ・ 聖望学園中学校 | ・ バット博士記念ホーム |
| ・ 青山学院大学 | ・ 聖隷クリストファー中学校 | ・ 福山暁の星幼稚園 |
| ・ アサンプション国際小学校 | ・ グローバルスクールコース | ・ 福山暁の星小学校 |
| ・ 関東学院六浦高等学校 | ・ 超党派ママパパ議員連盟 | ・ 福山暁の星女子中学・ 高等学校 |
| ・ 恵泉女学園中学・ 高等学校 | ・ 東京女子大学 | ・ 北陸学院小学校 |
| ・ 賢明学院高等学校 | ・ 東横イン | ・ 北陸学院中学校・ 高等学校 |
| ・ 国立女性教育会館 | ・ 日本インターネット・ガバナンス・フォーラム | ・ 北陸学院大学 |
| ・ 在日米国大使館
(米国上院司法委員会) | ・ 日本基督教団下落合教会 | ・ 明治学院東村山高等学校
(50音順) |
| ・ 女子学院中学校 | ・ 教会学校 | |
| ・ 杉並区立桃井第四小学校 | ・ 日本基督教団田園江田教会 | |
| ・ 聖心ウルスラ学園高等学校 | ・ マナの会 | |

NGO・政府機関との連携・協働

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは他のNGOや関係機関と協力しています。

- | | | |
|-----------------------------|------------------------|-------------------|
| ・ JANIC(国際協力NGOセンター) | ・ JNATIP(人身売買禁止ネットワーク) | ・ 子どもに対する暴力撤廃のための |
| ・ JCC-DRR(防災・減災日本CSOネットワーク) | ・ JNNE(教育協力NGOネットワーク) | グローバル・パートナーシップ |
| | ・ SDGs 市民社会ネットワーク | (GPeVAC)日本フォーラム |

子どもと若者のセーフガーディング

「子どもと若者のセーフガーディング」は、職員や現地スタッフ、ボランティア、支援者の皆さまなど、すべての関係者が、団体の活動において子どもたちに一切の危害を加えることがないように徹底する取り組みです。

今年度も、毎月の委員会の開催、四半期ごとの現地事務所との会議などを行い、日々の活動のモニタリングを進めました。また、例年行っている研修を職員に行うとともに、理事に対しても研修を行い、セーフガーディングに対する理解を深めました。

様々なご支援・ご参加方法

※掲載は50音順

スポンサーシップ・プログラムへの支援

職場全体で、支店で、部署で、チャイルドの成長を見守っていただいています。

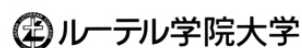


日本財託グループ
NIPPON ZAITAKU GROUP



寄付つき自動販売機の設置で支援

自動販売機でお茶やジュースなどの商品をご購入いただくと、一定額が寄付されます。



身近にあるもので支援

・ハガキ/切手を寄付

全国の皆さまより総額1,300,672円分のハガキや切手をご寄付いただきました。

・古本/物品を寄付

古本または物品(ご家庭で眠っているお品物)を通して、178,074円をご寄付いただきました。

プロジェクトへの支援

各支援地域でのプロジェクトや団体活動全般へご寄付いただきました。

株式会社八重洲口会館



峠商会株式会社
www.touge.org

協賛

シンポジウムやプロジェクトへご協賛という形でご支援いただきました。



その他の支援

社員の方からのご寄付、お客様やお取引企業などを含めた募金活動、マッチングギフト制度(社員の方の寄付に会社からの寄付を上乗せする制度)などを通してご支援いただきました。

総合教育・生涯学習機関

OKI愛の100円募金



ボランティア活動で支援

98名のボランティアの皆様に、ハガキと切手の仕分けや集計、翻訳や発送作業をサポートいただきました。

遺産・相続財産を寄付

ご自身の遺産やご家族からの相続財産を、「教育」という形で未来を担う子どもたちに贈ることができます。どうぞ事務局までご相談ください。

チャイルド・ファンド・アライアンス

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもへの支援に取り組む11の団体からなる国際的なネットワークです。子どもたちが本来備え持つ可能性を実現できるよう、貧困やその原因となっている環境を改善するために、70ヵ国以上で2,300万人以上の子どもたち、家族とともに活動しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月にチャイルド・ファンド・アライアンスに加盟しました。



2030年に向けた新しいガバナンスが始動

ポストコロナや紛争の拡大、気候変動などにより、子どもを取り巻く環境も急速に変わってきています。より確実に子どもの権利を守るために、アライアンス理事会ではガバナンス改革や意思決定手続きの見直しを目指す「Together 2030 Project」を実施してきました。この取り組みが本年度ようやく完結し、新しい理事会、メンバー・カウンシル(元CEOフォーラム(=事務局長会議))、事務局による新ガバナンスがスタートしました。

法的にとっても重要なアライアンスの定款が、以下の点で大幅に変更されました。

- 議論と意思決定を効率化するために、理事会の小規模化(14名→10名以下)
- 専門性と多様性に基づく理事選任を行い、新陳代謝が促されるようにするため、理事の任期を3年に

- 各メンバーの役職員ではなく利害関係もない立場の人材を活用し、グローバルサウス*の声も反映するために、社外理事を登用
- メンバーのCEOにも法的権限と責任を与えるために、メンバー・カウンシル(元メンバー国事務局長会議)を規定化
- アライアンス事務局長の役割の再定義 など

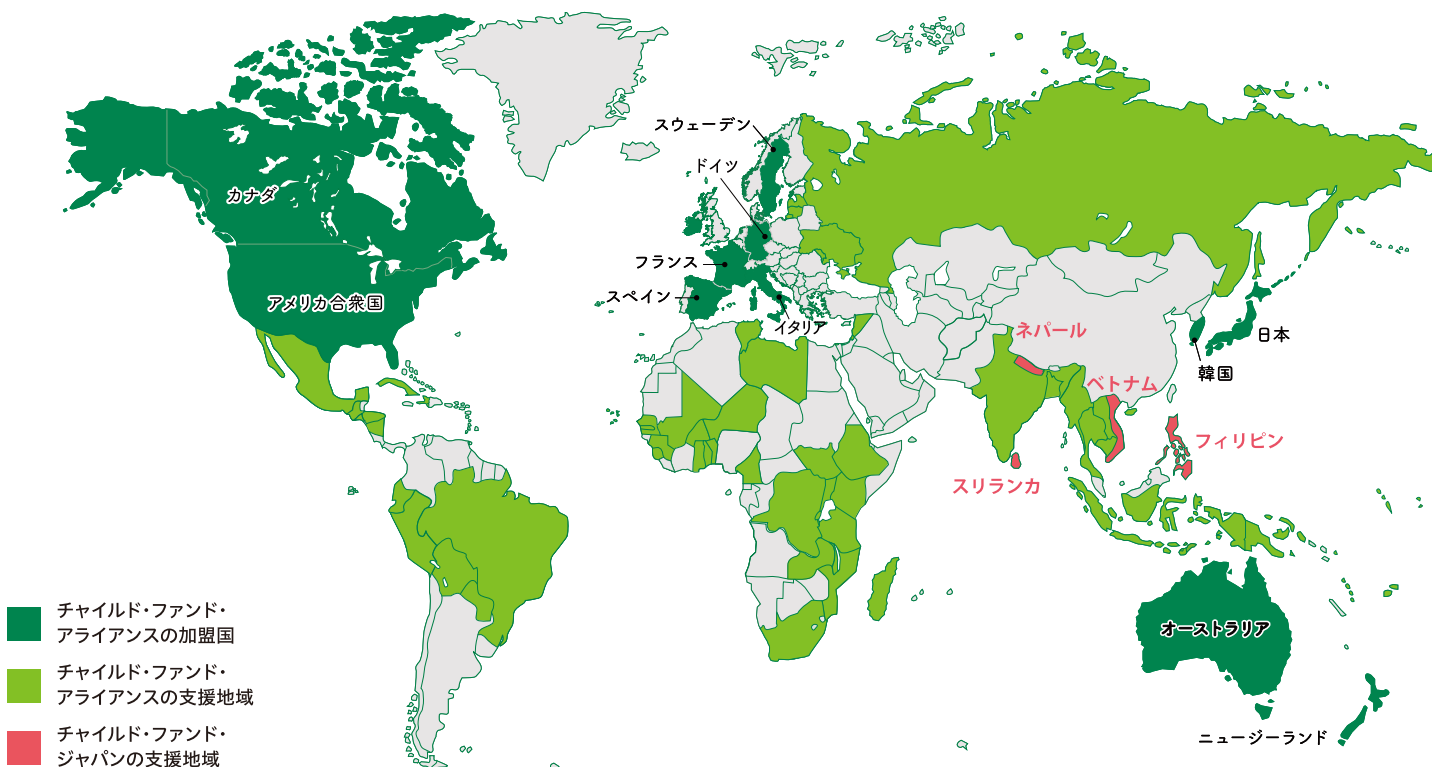
2025年1月から新しい理事会となり、当団体の福嶋美佐子副理事長がアライアンス理事に選任され、チャイルド・ファンド・インターナショナル(アメリカ)理事のTamar Manuelyan Atinc氏がアライアンス理事長に互選されました。

また、2024年11月には、157カ国の女性と子どもの権利の現状を調査・分析した「女性と子どもの権利に関するワールド・インデックス」を公開しました。11月13日にはローンチイベントも開催しました。



ワールド・インデックスのローンチイベントの様子

* 南半球に多いアジアやアフリカなどの新興国・途上国の総称

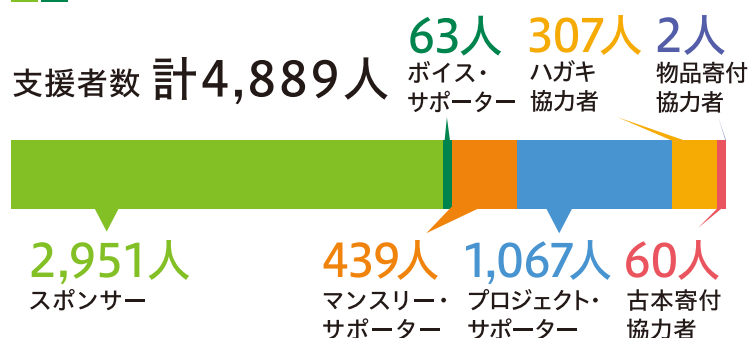


数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年

スポンサー、ボイス・サポーター、マンスリー・サポーター、プロジェクト・サポーター、ハガキ協力者、古本・物品寄付協力者としてご支援くださる皆さまと、フィリピン、ネパール、スリランカのチャイルドの数、支援を離れたチャイルドの数、決算報告の数字をまとめました。

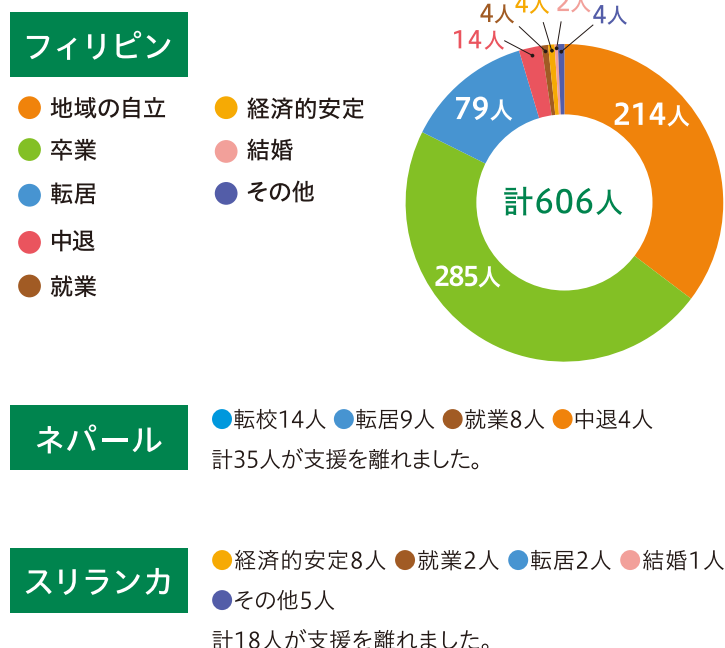
※数字はいずれも2025年3月31日時点

支援者数と支援チャイルド数



※複数ご支援くださっている方はそれぞれの支援方法でもカウントしています。

チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド (2024年度)

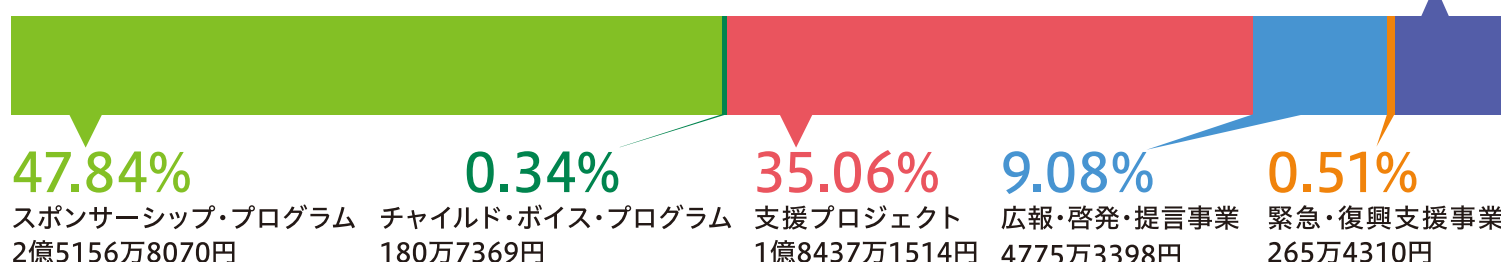


決算の概要

収入内訳 合計5億499万3162円



支出内訳 合計5億2585万2331円



2024年度会計報告

チャイルド・ファンド・ジャパンの会計監査について

チャイルド・フアンド・ジャパンでは、監事による内部監査の実施とともに、監査法人による外部監査を受けています。ここに記載されたものは財務諸表から抜粋したものです。詳細はウェブサイトでご覧いただくことができます。

<https://www.childfund.or.jp/about/>

活動計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

科目	金額(単位:円)
<一般正味財産増減の部>	
Ⅰ 経常収益	
受取会費等	252,000
受取寄付金	363,169,449
受取助成金等	132,592,727
その他収益	8,978,986
経常収益計	504,993,162
Ⅱ 経常費用	
事業費	(1)人件費 148,967,348
	(2)その他経費
	フィリピン支援事業費 102,879,209
	ネパール支援事業費 112,513,888
	スリランカ支援事業費 14,816,000
	その他海外支援事業費 2,878,021
	その他支援事業費 106,100,195
	事業費計 488,154,661
管理費	(1)人件費 21,011,511
	(2)その他経費 16,686,159
	管理費計 37,697,670
経常費用計	525,852,331
	当期経常増減額 -20,859,169
Ⅲ 経常外収益	
経常外収益計	0
Ⅳ 経常外費用	
	固定資産除却損 2
経常外費用計	2
	当期経常外増減額 -2
	当期一般正味財産増減額 -20,859,171

<指定正味財産増減の部>

受取寄付金	6,072,438
受取助成金	115,806,474
受取利息等	8,362,047
特定資産評価損益等	-14,373,493
一般正味財産への振替額	-268,523,884
当期指定正味財産増減額	-152,656,418
指定正味財産期首残高	754,568,622
指定正味財産期末残高	601,912,204

監査報告書

有限責任監査法人トーマツから
提出された監査報告書です。

[illegible]

貸借対照表

2025年 3月31日現在

科目		金額 (単位:円)
Ⅰ 資産の部		
1 流動資産	現金・預金	105,295,538
	未収金	6,910,508
	前払費用	2,619,178
	有価証券	2,000,000
	貯蔵品	245,271
	その他	5,777,763
	流動資産合計	122,848,258
2 固定資産	(1) 特定資産	
	支援事業推進特定資産	208,148,980
	緊急援助特定資産	38,500,000
	退職給付引当特定資産	27,543,600
	ネパール学校再建防災強化事業特定資産	13,325,547
	フィリピン保健医療改善事業特定資産	62,082,719
	海外地域開発事業特定資産	16,425,137
	遺贈特定資産	351,857,151
	フィリピン地域開発事業特定資産	158,221,650
	特定資産合計	876,104,784
	(2) その他固定資産	
	建物	52,542,330
	車両運搬具	7,976,172
	什器備品	2,323,816
	土地	16,140,000
	ソフトウェア	8,007,301
	ソフトウェア仮勘定	2,145,000
	その他固定資産合計	89,134,619
	固定資産合計	965,239,403
資産合計		1,088,087,661
Ⅱ 負債の部		
1 流動負債	未払金	19,286,326
	預り金	5,383,193
	賞与引当金	457,578
2 固定負債	退職給付引当金	27,543,600
	負債合計	52,670,697
Ⅲ 正味財産の部		
1 指定正味財産	受取助成金	91,173,707
	受取寄付金	500,686,647
	受取利息等	10,051,850
2 一般正味財産	一般正味財産	433,504,760
	正味財産合計	1,035,416,964
負債及び正味財産合計		1,088,087,661



2024年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン 【目標】

すべての子どもに開かれた未来を約束する
国際社会の形成

愛のバトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変わり、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション 【使命】

生かし生かされる国際協力を通じて
子どもの権利を守る

子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

理事長 高橋 潤

事務局長 武田 勝彦

所在地 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5

T E L 03-3399-8123

F A X 03-3399-0730

E - m a i l inquiry@childfund.or.jp

U R L <https://www.childfund.or.jp/>



すべての子どもに開かれた未来を